

身の回りで起こり得る災害シナリオと被害の様相①

※ 被害の様相は一つの想定として作成したものであり、実際の災害の被害様相と異なる事象が発生するものではないことに留意が必要

～首都直下地震が発生すると…（インフラ・ライフラインの復旧に向けた動き）～

想定条件

マグニチュード7.3/冬/18時/風速8m/s

	被災者を取りまく様相	電力	上水道	下水道	ガス	通信	鉄道	道路
発災直後～1日後	発災後当面の間は、ライフライン寸断等、被災生活に大きな支障 ▼液状化地域では、住宅の傾斜など、継続的な居住や日常生活が困難化 ▼長周期地震動により固定されていない本棚等が転倒したり、家具、ピアノ、コピー機等が大きく移動し、人に衝突 ▼本や食器、窓ガラス等が飛散し、ストーブ等の火気器具が転倒 ▼停電で住宅のエレベーターが停止	▼広範囲で停電が発生 ▼広い地域で計画停電が実施される可能性	▼断水が発生 	▼下水利用が制限 ▼排水管等の修理が終了するまで、集合住宅では、水道供給が再開してもトイレ利用が不可	▼一般家庭で使用される低圧ガスは、安全措置が作動し、広域的に供給が停止 ▼各家庭でも、震度5弱程度以上で自動遮断	▼音声通信やパケット通信の利用に支障 ▼輻輳により音声通話はつながりにくくなる ▼メール、SNS等の大幅な遅配等が発生 ▼携帯基地局電源の枯渇により不通エリア拡大の可能性 ▼音声通信もパケット通信も利用困難が継続	▼点検や被災等で、都内のＪＲ在来線、私鉄、地下鉄が運行停止  ▼新幹線も運行停止し、都外からの来街者の多くが帰宅困難 ▼道路寸断や、交通規制、渋滞等により、バス等の代替交通による移動も困難	▼高速道路及び主要一般道において、交通規制が実施され、一般車両の通行が規制 ▼環状七号線の内側方向への流入禁止等の交通規制が実施 ▼ガソリンスタンドは当面給油不能が長蛇の列
3日後	▼ライフライン停止等により、空調やトイレ等が利用できない状態が継続 ▼品切れにより飲食料等生活必需品の確保が困難化	▼徐々に停電が減少  ▼発電所の停止など、電力供給量が不足し、電力需要が抑制されない場合などは、計画停電が継続する可能性	▼断水の復旧は限定的 ▼断水・濁水は段階的に解消されるが、浄水施設等の被災による断水は継続	▼一部地域で下水利用が困難な状況が継続 ▼排水管等の修理が終了するまで、集合住宅では、水道供給が再開してもトイレ利用が不可 	▼低圧ガス管路の安全点検や復旧作業が終了せず、一部の利用者への供給停止が継続 	▼順次、通信が回復 ▼通信設備の被害状況によっては、電話やインターネット等通信が長期間に渡り不通となる可能性	▼復旧完了区間から順次運行が再開するが多くの区間で運行停止が継続 ▼橋脚などの大規模被害や線路閉塞、車両脱線等が発生した場合復旧まで1か月以上の期間が必要となる可能性	▼高速道路や主要道路で交通規制が継続 ▼通行可能な道路において、鉄道等の運休継続で車両利用が増え、慢性的な渋滞が継続
1週間後	▼ライフラインの状況により空調やトイレ等の一部が利用できない状態が継続 ▼電力が復旧しても、保守業者による点検が終了するまでは、エレベーターが使用できないため、復旧が長期化する可能性 ▼過剰な購買や買占めにより生活必需品の品薄状態が継続 ▼自宅の再建や修繕を望んでも、業者や職人等の確保が困難	▼建物倒壊や焼失など復旧困難エリアを除き、安全点検の終了や管路の復旧により、多くの地域で供給が再開	▼断水は概ね解消するが、浄水施設等が被災した場合、断水が長期化する可能性	▼多くの地域で利用制限解消 ▼排水管等の修理が終了するまで、集合住宅では、水道供給が再開してもトイレ利用が不可	▼安全点検の終了や管路の復旧により、建物倒壊や焼失など復旧困難エリアを除き多くの地域で供給が再開		▼高速道路や直轄国道等の主要路線は段階的に交通規制解除 ▼その他道路では段階的に閉塞や交通規制が継続する可能性 ▼土砂災害等により道路が寸断された場合、復旧までは数か月以上を要する可能性 ▼羽田空港等は、徐々に一般利用客の輸送を再開	
1か月後								

10

◆ 発災後当面の間は、ライフラインや公共交通機関など、身の回りの生活環境に大きな支障が生じるとともに、被害が甚大な場合は、その復旧が長期化するおそれ